

おお大勝利

平成 30 年度山東サッカー一部報第 11 号 (8 月 23 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

今号は、夏休み前の Y リーグから、夏休みの活動（復興支援奉仕活動、月山合宿、サッカーフェスティバル、苗場遠征）まで、盛りだくさんとなります。時系列にお伝えします。

Y2A羽黒B戦 大敗に終わる

夏休み前の 7 月 21 日（土）、Y2A 第 10 節の羽黒 B 戦が米沢の人工芝 SF で行われました。山東は前期、3 年生もいたチームにて 2 対 3 で競り負けている。普通に考えたら新チームでは厳しい相手となりますが、そこは変化の激しい高校生。何があるか分からない。

試合が始まると、**山東の試合の入り、悪くない**。前節山本学園戦ではチグハグな入りで最初からやられた反省が生かされている。やる事が整理されているというか無駄がないというか。その中で、**右 SH の 2 年ウエノ** がトリッキーなドリブルや独特なリズム感で為されるポストプレーでボールに効果的に絡み、山東の攻撃を牽引。そんな**序盤のウエノ劇場**において、（確か）ウエノのドリブルが相手のファールを誘い、山東、相手ペナルティエリア中央付近で FK 獲得。ベンチでは演技派のウエノの話題で盛り上がっていると、**キッカーの 2 年ノブがクイックスタート**¹。羽黒の選手は壁を作ったりのゴタゴタで集中が切れていた隙を突いて、ウエノがボールを受けて、そのままゴールに流し込んだ！ **山東先制！！** いや～、以前はクイックスタートからの得点は結構あったのだが（ユートやベジが得意にしていた）、最近見かけなくなっただけに、得点の中でも特にうれしいものだった²。

しかし、その後、羽黒に地力を出されたというか、**幅を使ったパスワークに翻弄**され、簡単にトップを使われたりサイドを突破されたりで、前半だけで 3 失点。1 得点だけで皮算用³していたわけではありませんが、1 点上げて盛り上がったのが遠く感じられるハーフタイム。後半も 2 点取られて、**結局 1-5 の大敗**。後半山東にチャンスがあったかどうか、もう遠い昔で忘れてしまいました（やはり報告は速やかにするものですね）。ですが、試合後の

¹ FK の時、キッカーがすぐプレーしないのを確認したら、主審は笛を吹いてプレーを（FK を）いったん止め、壁を正規の距離で（10 ヤード=9.15m 離して）作らせ、それから笛を吹いて再開を合図し、FK を蹴らせます。しかし、キッカーが、壁の距離等が正しいルールにのっとっていなくても、すぐプレーすること（クイックプレー）を選択した場合、主審はそれを尊重して、FK によるプレーの再開を見守ります。よく、主審をしていると、守備側のチームが、勝手に「主審早く止めて」と自分たちに都合のいいことを言うシーン（言われるシーン）に出会いますが、止めるか止めないかを決めるのはあくまで攻撃側チームであり、主審がすぐ止めちゃったら攻撃側チームのクイックプレーの選択肢を奪うこととなります。

² ハーフタイム、オサが「(キッカーの) ノブが主審に止めさせ（て壁を遠くに作らせ）ようとしたから、(クイックプレーが有効と考えた) 俺がノブを止めたんです」と**手柄を横取りするカンタ（山東第 68 回卒）的発言**をしていましたが、とすると、この得点、ウエノ 0.5 点、オサ 0.4 点、ノブ 0.1 点分の貢献ですね。

³ 山東生諸君、ことわざ問題。「獲らぬ〇の皮算用」さて〇に入る動物は何？ そしてこのことわざはどういう意味？

羽黒のコーチとの会話は覚えている。山東は、羽黒 B は 1・2 年主体で、A に入っている 1・2 年を加えつつも羽黒の新チームの主力がこの B に集まっている、とっていたが、私が「この中で来年 A で出場するのは何人くらいいますか」と聞いたところ、「ん〜3 人ですかね」との返答・・・やはり羽黒、厚い選手層を誇る！

山東はまだまだ修行が必要ですね。まずは、夏休み明けの県リーグの応援よろしくお願ひします。

8月26日(日) Y2A 第11節 山形中央C戦 10:00~@山形中央高校G

復興支援奉仕活動 今年もやりました

7月29日(日)宮城県石巻市に震災復興支援の奉仕活動をしに行き行って参りました。石巻市への復興支援活動は、**平成24年(2012年)から始めて今年で7年目**。この企画、国境なき奉仕団というボランティア組織の協力を得まして、実施にこぎつけている。奉仕団のチーム山形の団長を務めていらっしゃる**遠藤さん(遠藤物産)**にコーディネート及び引率して頂き、**岡崎さん(タカミヤホテルグループ)**にはバスを運転してもらい、移動費から何からすべて、奉仕団におんぶに抱っここのこの企画。本当に貴重な経験をさせてもらっております。1年目は石巻市のドブさらい、2年目は仮設住宅の草むしりなど、肉体労働そのもので、「サッカー一部部員にうってつけ」でしたが、3年目からは牡鹿半島の漁業支援活動をしている⁴。

事前に生徒には「**自分たちの修行のために働かせて頂きに行く**」という企画の趣旨を説明。「相手のために活動に行く」という気持ちだけが先走ると、思い通りいかなかったときについて「来てやったのに／働いてやってるのに」という傲慢な気持ちが芽生えがち。「自分の人間的成長のために行くんだ」となれば、活動は謙虚であり続けられるだろう。もちろん、活動は被災者のためでなければならず、決して自己満足ではだめだが、「**自分の修行として行く、結果、相手が喜んでくれたら尚うれしい**」という気持ちの構えは毎年強調している。

今年も、ここ最近毎年行っている貝刺し作業のお手伝い。3グループに分かれて、行う。昨年は帆立貝の貝刺しを行い、(確か)牡蠣の養殖の「苗床」を作ったのですが、私が今年行った作業場は、牡蠣の殻を使ってホヤの養殖の「苗床」を作るところ。小さい牡蠣の殻を二つ組合せ、続けて大きな殻を二つ組合せ、空いている穴に交互に針金をどんどん通していく作業。単調作業ではありますが、それぞれスピードを競う気持ちが働き、意欲的に取り組める。サッカー部諸君も意欲的に仕事をし、穴の開いた殻がなくなり、旦那さんに穴を開けてもらいつつ平行して「苗床」作り。

サッカー部諸君の作業量にとっても驚かれ、そして、とても感謝されました。作業中の旦那さんのお話しによれば、この地区は海からやや離れているので住民の盲点となったが、低地のため津波被害の大きく、ほとんどの家屋が流され、震災前には40戸ほど住んでいたが現在10戸ほどに激減しているとのこと。**仕事の復興という課題もありますが、地域社会の復興という課題はより大きいものだと実感しながら、活動して来ました**。

⁴ ボランティアであまりやりすぎると、仕事として復興を行う方々の邪魔をすることになる。そんな事情が3年目くらいからあり、震災で壊滅的打撃を受けた漁業への支援活動になりました。

活動を続けることに意味があると考え、今年で7年目になりましたが、来年も続けていきたいと改めて思いました。牡鹿半島の皆さま、奉仕団の遠藤さん、岡崎さん、ありがとうございました。

充実の月山合宿

8月2日～4日、恒例の月山合宿⁵を行いました。昨年は南東北 IH があり、宮城県で IH が開催されたものだから、そして、月山湖がカヌー競技の IH 会場となり月山の志津温泉街も IH で押さえられているだろうから、恒例の月山合宿を取りやめ、IH 視察としましたが、今年からまた復活。心強くも齋藤 GK コーチが帯同してくれたため、2年イグラと1年カザマの GK コンビは GK トレーニングに専念できました。

2日 112号線沿いの弓張平に登る入口でまずバスを降り、弓張平公園までランニングするところから合宿スタート。ランニングといっても単なる山道の登りですから、結構キツイ。到着し、これまた恒例の、メディシンボールを受け渡ししながら公園内の上り下りの道を走る**30分間追い抜き走**。その後は、**坂道ダッシュ（上り）とレンジ（下り）**⁶で集中的にもも裏やお尻の筋肉を鍛える。上り下りの合間には、立ちひざで相方が足を地面に押さえつけた状態から、上体をゆっくり地面に下ろす筋トレ。もも裏（ハムストリング）が鍛えられる。午前で20本行おうと思ったが、結構時間がかかり、半分くらいで昼食休憩。

その休憩中、山東サッカー部にトレーナーを派遣して下さっている**芹川さん（せりかわ整骨院 山東第41回卒）**が、差し入れとともに新しいトレーナーさんを連れてきて下さった！ いらっしゃったのは、鶴岡市の「さとう整形外科クリニック」でリハビリテーション科部長をされている**理学療法士・トレーナーの伊藤徳明さん**。昼休憩中、伊藤さんは芹川さんとともに故障者の診断・治療をして下さり、リハビリについても丁寧に指導して下さいました。その数時間で、山東サッカー部内に多くの「伊藤信者」が出来上がった模様です。伊藤さんは鶴岡で活動されているという事情もあり、いらっしゃる機会は限られているかと思いますが⁷、今後ともよろしくお願いします！！ **芹川さん、伊藤さんありがとうございました。**

さて、午後は坂道ダッシュ&レンジ&筋トレの残りをやり、それからサッカーボールを使いつつも、徹底してランニング。そう、**この月山合宿はフィジカルトレーニング合宿なんです！** そもそも、弓張平公園の中で確保した施設は、陸上のトラックに囲まれた天然芝のピ

⁵ もっと時代をさかのぼれば、恒例だったのは**蔵王合宿**でした。山東第**33回卒**の代の**丸子先輩が1年生の時、恒例の校内合宿中、熱中症で亡くなるという痛ましい悲劇があった**のを受け、OB会の紹介により蔵王温泉の川原屋さんという温泉宿に滞在し、涼しい高地で合宿することとなり、それが20年以上続いております（私も学生時代川原屋さんで合宿しました）。私が13年前山東に赴任した時も蔵王合宿は恒例で、それから3年ほど続けましたが、10年前くらいの火事で川原さんが焼けてしまい、それ以降、月山で合宿しております。ちなみに川原さんは、現在でも「すのこの湯 かわらや」との名で日帰り温泉として営業を続けております。蔵王温泉の中でも知る人ぞ知る非常に素晴らしい源泉でしたし、HP上の写真を拝見するに、お風呂場の面影は今も変わらず残っているようです。

⁶ レンジとは、歩幅を大きくして歩きながら、一回一回の踏み込みのたびに前ひざが90度程曲がるくらい深く踏み込むトレーニングで、軽いメニューのようであり、翌日ものすごくお尻周りにダメージの大きい（すなわち効果の高い）トレーニングです。

⁷ 進学校大会には来て下さいます。

ッチではなく、その下の野球場のそのまた下の運動場。苔のような柔らかい植物が下を覆っており、フカフカ。当然サッカーには不向き⁸。それでもいいんです。だって、サッカーしに来たわけじゃないので。

サッカーしたといえ、**3日4日の5:15~7:15に朝連でボールを扱った**くらい。二日目も午前中は**月山登山**をしたので、運動場をそもそも使わなかった。**112号線から姥沢駐車場までの10kmの上り道を走破**するこの企画。最後の4kmくらいが「本当の月山」であり、自分が進んでいる気がしない厳しい上り坂になる。「アキシンが訳の分からないところにボールを蹴ったせいでその途中で足を挫き捻挫になった」と足首の捻挫をアキシンのせいにした**2年寡黙な主将ニコラス**、そして**ワタコー(67回卒)以来故障者が絶えない股間の痛みで離脱中1年カマーチョ**、**前の熱中症以来体調が思わしくない1年ハク**の3名は、最初から登山に参加せず。ということで、22名でスタート。初日のレンジのおかげで皆足が超絶重いし、高地で比較的涼しいとはいえ灼熱地獄なため、コンディションは悪い。が、そこは根性で乗り切るしかない。しかし、早々に1年生1名が圧倒的に遅れ始め、「本当の月山」の手前でリタイア。故障でリタイアは過去あったが、「足が動かない」などの理由でのリタイアは前代未聞。最後まで無理無理走らせる手はありましたが、選手の走りを見守る車⁹が彼専用になってしまうのでね。こちらからもリタイアを促しました。結局、**2年生の頑張りが目立ち**、65分を切ったのがいずれも2年生の3名(**1位オサ**、**2位ノブ**、**3位イクラ**)。70分を切った選手にようやく**1年生のユースケ**がいるくらい(あと**2年スリーピー副主将タケチャン**)。**1年生の遅さが目立ちましたね。1年生は来年、進化した姿を見せなければいけない(このままではダメ)**。

食事でも、やはり1年生の意識の低さが目立った。普段朝食食べないなどという論外の選手もいたし、肘をテーブルについて食べる、食器を持たないという食事マナーの悪さにより、**食事のスピードがやたら遅い**。志村先生の圧倒的なスピードは脇に置いておくとしても、齋藤 GK コーチや私(今野)よりも、とにかく食べるのが遅い。よく咀嚼しているとも言えるが、**無駄に遅いことによりアスリートに必要な食事量を確保できていないと言った方が正確**な気がする。彼らの(ほぼ全員ガリガリ)体つきを見れば。自分の食への意識を変えることで自分の体を変えていかなければいけない、と感じました。これは2年生も含め。

最終日(5日)は朝連しただけで、勉強して、昼食をとって、午後からのサッカーフェスティバルに備え、山形へ移動。よって、あわただしい合宿となりましたが、とても効果的な合宿でした。**宿泊した志津温泉の「えびすや」さん**は、空いていなかったところ調整して下さり、この日程での合宿を受け入れて下さいました。ありがとうございます。また、**保護者会の皆様**は、激励金を頂戴しただけでなく、初日、二日目、三日目と全日程、多くの方が顔を出して下さい、果物や胡瓜の一本漬、ドリンク等を差し入れて下さいました。三日目は荷物運びも手伝って頂きました。ありがとうございます。

⁸ ただ今年は猛暑のおかげで、そのフカフカの植物も元気がなく、足元は硬めだったのおかげで、例年よりもサッカーには向いたコンディションでした。

⁹ ちなみに、この日は、顧問車2台、齋藤 GK コーチの車1台の計3台で選手の走りを見守り、水を供給しました。後藤報道局長も取材に訪れましたが、スタッフの車だけで3台あったので、今年は取材に専念して頂きました(過去は水のボトル供給車をして下さったこともあり)。

山東サッカーフェスティバル(OB戦) 今年も盛会

8月4日(土)、8月第一土曜日恒例の山東サッカーフェスティバル(OB戦)が開催されました。OBと現役入り乱れてのサッカーの後、中庭で佐門のモツ煮を食べる恒例の企画。冬の納会が昨年で36回目だったので、この企画も30年以上は続いているものと思われる。今年も盛大に開催されました！

プレーしたという意味では、**上は山東35回卒の方から下は卒業したての68回卒のOBまで**、幅広い世代が結集。**35回卒は近年毎年参加して下さっている齋藤さんと野口さん、36回卒は沢井さんと鈴木さん(ユートパパ)、37回卒は荒木さん**。ここまでがレジェンド2冠会の方々¹⁰。私はまったくもってトレーニング不足だし、合宿明けで疲れている、翌日から高体連委員長として三重IHに行かなければならない、などなど様々な理由により、プレーしない気満々(プレーしろとのお誘いを断る気満々)でしたが、レジェンドの方々が元気にプレーする中、43回卒の私がプレーしないわけには行かない・・・内心覚悟していましたが、準備し、現役選手との試合に臨む。

前回までは、レジェンドの方に得点してもらおうという気持ちはありながら、実現できていなかったのも、せっかくプレーするのなら、アシストしたいという気持ちを持ってピッチに立ちました。最初CBとしてプレーしましたが、**挨拶代わりに現役生相手に又抜き¹¹敢行、そして成功!** 現役選手が、あんな場所(自陣ゴール前)で、あのポジションの選手(CB)が又抜きなんかしたら、指導者として絶対に激怒していますが、伝えたかったのは、**遊び心、サッカーを楽しむ気持ちの大切さ¹²**。私が現役のところは、4対2という練習であれ、ミニゲームであれ、皆競って又抜きを狙っていましたが、最近の現役選手は相手の裏や逆を取ろうという気持ちが圧倒的に不足しており、プレーを楽しんでいない(だから観ていてもつまらない)。「又抜きを狙う」といってもその狙いがばれたら成功しないわけで、いかに違う狙いをしていると思わせるか、または違う狙いを持ちつつも同時に又も狙うかが肝心であり、**いかに相手や味方(すなわち周り)を観ながら、そして動かしながら¹³、自分の効果的なプレーを形成するかというサッカーの本質に関わる**のです。

さて、それはそうと、今年、ようやくレジェンド世代が得点して下さった。といっても、**決めたのは38回卒の石澤さん**ですが、アシストは35回卒の齋藤さんだったような。ともかく、**40代・50代OBチームが現役生相手に華麗なパスワークから得点し、とても気分良かったです**。と書いていて、思いましたが、Very Old Boys 略してVOBに得点されるようじゃ、現役生は不甲斐ない(長幼の序をわきまえているとも言える)。

そして、今年は20代のOBが非常に多く、うれしかった。私が赴任した時に1年生だ

¹⁰ IHと選手権どちらも出場したレジェンド世代です。特に、1・2年生主体のチームでの選手権の出場が素晴らしい！ 37回卒には、冬の校内合宿においてお米を頂戴した後援会の**事務局長後藤さん**(〇和熱処理株式会社)もいらっしやいます。

¹¹ 相手の又の間にボールを通して、ボールを保持し続けること。選手として逆に又抜きされるのは、屈辱です。

¹² ただやりたかっただけ、とも言えますが、でも、そうやりたくなる、という気持ちを持っていることを伝えたかった、と言えば、もっともらしい理由になるものです。

¹³ **だって又抜きって、たまたま開いている両足の間にボールを通すプレーではなく、相手の両足を開かせる技術に基づくプレーなのですから。**

った**59回卒が、5名（カオル、ユーイチ、センドー、アカイシ、ダイシン）も来てくれたり**。おかげで、20代・30代のOBチームのレベルが例年以上に高かった。来年もよろしく！

プレーの後は、中庭移動。**各種ドリンクを左手に、箸を右手にもち（右利きの場合）、佐門のモツ煮に舌鼓を打つ**。プレーで汗をかいた後に、このしょっぱい味付けがまた効く。味を薄めたい場合は豆腐で調整すればよい。「**プレーの後にモツ煮**」というこの企画を考えて下さった**山東サッカー部後援会の武田元会長（故人）と奥山前副会長に改めて感謝**。二冠会世代から私の代まで、サッカー部の顧問をして下さった**鈴木正浩先生**もいらっしやり、OB席はより華やかに。

少し腹を満たした後は、3年生代表の受験に向けた決意の言葉と2年生代表の今後のプレー面での決意の言葉で締めて、終了。今年も、「**山東サッカー部はそこで育ち旅立つ場所であり、帰ってくる場所でもある**」という思いを深くいたしました。**後援会の皆さま、重ね重ねありがとうございました**。

苗場遠征でサッカーと向き合う

8月11日～14日までは、これまた恒例の新潟県の苗場で行われる苗場遠征。苗場といえば、宿舎と大会会場間の山道のランニング、そして、良質なクレーのピッチ、（1年生主体ではあるが）関東のチームの多さにより、山東が例年鍛えてもらっている。今年から人工芝ピッチを1面準備したので、今後人気が出ることでしょう。

齋藤 GK コーチ（43回卒）が帯同して下さるので、GKの育成はバッチリ。また、OBとして、**インテルことタクミ（61回卒）、カツミ・ムンタリ（66回卒）、ハヤト（67回卒）の4名が参加**してくれた。当初、今年の1年生の部員が多いから、そんなにOB必要ないかと思いきや、故障者が多く、OBは大車輪の活躍¹⁴。しかも、その故障者の一人が二人しかいないGKのイグラなものだから、BチームのGKとして齋藤さんとタクミ君に頑張ってもらった。

さて、Aチーム・Bチームとも、初日二日目とも、無得点の敗戦が続く。しかし、**Bで出場してくれるOBのプレー中の声（コーチング）やプレーの気迫にかなり影響を受けた**ようで、三日目くらいから徐々にピッチ内の雰囲気成長が見られるようになる（端的に**活気を感じられるようになった**）。三日目は雷雨で午後の大会日程はキャンセルになりましたが、試合をしたくて唯一残った**新潟商業さん**と山形東で、人工芝ピッチを使い放題。最終日、ABとも対戦相手は再び新潟商業さん。**ピッチ内外で、話し合い、コーチングが見られるようになり、一体感が生まれ、プレーにも流れが出てきて、チームの成長を感じました**。

こんなにもOBによってチームが変わった遠征もなかったと、しみじみ思いました。この遠征を通じて、選手はサッカーと向き合い、自分（達）の足りない点を、OBのプレーやコーチングから学ぶことができました。**OBの皆さん、本当にありがとう**。「本当にうまいやつは自分のことうまいと思ってないから」というタクミさんの名言、忘れません！

宿舎は、昨年同様、**ハイジさん**。おいしい食事とおもてなしで、とても快適な4日間でした。ありがとうございました。

¹⁴ カツミ君だけ、二日目から参加。